

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2012年9月 [第60号]



CanDoの活動の方向性 個別幼稚園での保健活動の形成を目指して 永岡 宏昌
ナイロビ便り ケニアの携帯電話のこと 石田 純哉
報告 ミグワニ県における学校保健—エイズ教育と早期妊娠予防— 伊東 彩
新しい4人のケニア人スタッフを紹介します
インターンを終えて 横田 陽紀/山越 泰斗/小林 由佳
フォトレポート 幼稚園の関係者会議・子どもたちへ保健トーク・エイズ教育研修
事務局から

写真は、早期妊娠予防研修で「学んだことを守っていける人は」という専門家の問いかけにこたえる保護者

個別幼稚園での保健活動の形成を目指して

代表理事 永岡 宏昌

ケニアの公立幼稚園は、公立小学校に併設され、校長が管理責任者となっています。2003年に、無償初等教育制度が始まり、小学校では、それまで保護者が負担していた教科書代等は無料となり、義務教育となりました。しかし、幼稚園は制度から除外されて現在に至っています。幼稚園においては、保護者が幼稚園教師の給与と運営諸費を負担して、子どもを通わせています。

幼稚園は、年少、年中、小学校進学準備の年齢別クラスに分けられています。アルファベットと数字を覚えること、さらに初歩の英語などの学習達成への関心は、事業地のミグワニ県では、現在、退出移行中のムインギ東県と同様に高いと思われます。聞いた範囲では、幼稚園に通うことが義務ではないにもかかわらず、進学準備クラスで一定の成績に達することを、小学校入学の実質的な条件としている学校も多いようです。

ミグワニ県は、半乾燥地に属していますが、ムインギ東県に比べ、降水量が多いため、天水による農地耕作が生業の中心となっています。人口密度が高いので草地の確保が難しく、牧畜の比重は低くなっています。降雨が安定していれば、比較的豊かな農業地域なのですが、近年の度重なる干ばつや降雨

パターンの不安定化などのために、生業基盤が脆弱になっているといえます。また、丘陵の上部に多くの住民が暮らし、安全な生活用水の確保が難しい状況にあります。子どもの健康に関しては、安全な飲み水、身体の衛生を保つ水とともに、栄養バランスのよい食事の確保も難しく、疾病の予防につながる衛生環境からは遠い状況です。

当会は、幼稚園が子どもの学力向上のための場だけではなく、健康の改善・増進につながる場となるよう、昨年からミグワニ県においても幼稚園での活動に取り組んでいます。教育区ごとに幼稚園教師への保健研修を実施し、また教師と校長、保護者代表による関係者会議を開催して、幼稚園での保健活動を促してきました。

次の段階として、いくつかの幼稚園を選定し、そこを対象とした活動に取り組んでいます。当会専門家が定期的に通って、幼稚園教師の現場での保育技能の向上のほか、保護者への子どもの健康につながる知識や技能の研修、保護者の参加による保健活動を実施したいと考えています。これらの活動を通して、幼稚園での状況の改善とともに、保護者による家庭での子どもの健康増進につながる取り組みの普及を目指します。

ナイロビ便り

ケニアの携帯電話のこと

調整員 石田 純哉

携帯電話—この通信機器は、私たち日本人の生活において、すっかり浸透したものになっています。電気通信事業者協会(TCA)の調べによる契約者数を日本の総人口で割った、契約数上の普及率は97.3%となります(2012年3月現在)。

では、ケニアではどうでしょうか。国際電気通信連合(International Telecommunication Union:ITU)の調べによると2006年、2007年、2008年、2009年、2010年の普及率は、20.1%、30.3%、42.4%、49.1%、61.6%と推移しています。

当会が実施している基礎保健研修の参加者から、ミグワニ県における普及の状況を見てみました。現在まとまっているミグワニ郡、グタニ郡、ゼルニ郡のデータを見ると、参加者870名のうち555名が携帯電話の番号を記載しています。「保有していると考えられる」人数は63.79%になり、先のITUの調べのケニア全体の2010年の数字に近い数字になっています。ただし、研修の参加者が、家族の携帯を持参している場合もある、といった状況を考慮すると、ミグワニ県における保有率はこの数字より下回ると考えられます。

ケニアにおける携帯電話の利用方法はさまざまです。通話、ショート・メール・サービス

(以下SMS)、インターネット接続のほか、ラジオでの利用や携帯電話口座としての用途があります。

この口座はM-Pesa—モバイルの「M」+「ペサ=お金」といい、預け入れ、引き出し、送金がSMSを利用して、ケニア全国の取扱店でできます。

当会では日本人・ケニア人調整員、調整員助手、インターンに個人用の携帯電話を貸与し、一般的な通話、SMS、そしてM-Pesaの機能を活動に利用しています。

M-Pesaでは、ケニア人スタッフ、専門家が、その週の活動に必要な交通費、宿泊費、活動手当を前払いという形で支払っています。また、通話機能、SMS機能を利用して、日程、車両の配置の連絡、その確認などを頻繁に行なうことにより、業務を調整しています。エイズ教育研修などでは、参加者との連絡にも役立てています。

携帯電話には悪用方法もいろいろありますが、非常に便利な機器です。当会が取り組んでいる教育、保健、環境の活動を広げていく上で、携帯電話の力は大きいと思います。住民の主体的な行動を促進する「文明の利器」となってほしい、そのようにCanDoで利用できればと考えます。

報告 ミグワニ県における学校保健—エイズ教育研修と早期妊娠予防—

調整員 伊東 彩

■エイズ教育研修

現在、実施しているミグワニ県での事業で、学校保健活動として、小学校教員向けのエイズ教育研修と、特定の小学校での早期妊娠予防研修をおこなっている。

エイズ教員研修は3つの課程(各2日間)から成り、教育区ごとに小学校の教員に参加を呼びかけて実施している。

ケニアの小学校では全学年、全ての教科でエイズが取り上げられている中で、第1課程では、エイズ教育の基本となる理科科目に着目する。エイズの理学的知識を中心として、それに加えて、陽性者への理解や共生、サポートといった社会的側面を扱う。

第2課程では、低学年向けのエイズ教授法を扱う。理学的知識を得る前の段階で、主に言語科目で、エイズ関連の内容が断片的に扱われている。標準的なエイズ知識に社会的側面を交えながら、子どもたちの恐怖心を軽減し、エイズに対する誤解や偏見を生まないように教える方法を学ぶ。

第3課程は、小学校高学年向けのエイズ教授法として、ライフスキルや宗教教育の科目内でのエイズの内容を扱う。心身の発達期の過渡期にある子どもたちが、日常の誘惑や困難に対して適切な判断を行ない、自分自身を HIV 感染リスクから守ることができる

ようになることの重要性を説明する。

2011年3月から開始し、2012年8月末までに、第1課程を349名、第2課程を306名、第3課程を113名の教員が修了。今後は第3課程を全5教育区で1回ずつ実施し、2012年2月までに完了する予定である。

また、研修を受けた教員による公開授業、指導を受けた子どもたちがエイズについて表現する発表会も行なっている。

■早期妊娠予防

今年から、特定校での早期妊娠予防研修も実施している。ミグワニ県全5教育区の教育官から、妊娠の事例がある小学校など、実施の必要性が高い15校が挙げられた。今年はそのうち10校での研修を計画し、8月末までに5校で実施した。

研修は3部構成となっている。

1. 教員向け研修
2. 保護者向け研修
3. 子どもへの保健トーク

—性と生殖に関する健康—

保護者向け研修では、教員と保護者が話し合う場を設けている。その後の子ども向けの話でのコンドームの扱いや、性交渉をはじめとするさまざまなリスクから、子どもをどのように守っていくべきか、を話し合っている。

調整員助手2人+専門家2人

新しい4人のケニア人スタッフを紹介します

◆調整員助手

エリザベス・ムティンディ・ムニャシヤ-3月～
以前は他のNGOで働いていた。地域の人たちに情報を与えて、生活をよりよくしているCanDoでの仕事ができ、「光栄に思っている」という。ムインギ中央県出身。20代後半。

ジャネット・マカウ-3月～

飲料水の倉庫管理の仕事からCanDoに転職。夫と2歳の子どもがいる。ミグワニ県出身。20代前半。

◆専門家

アルフレッド・キエマ・ムワンガンギ-4月～
教室建設・補修担当。ナイロビ近郊で住宅や高校の寮の建設に従事。CanDoの活動では、住民は知識や技能を日常生活に役立てることができると思う。ナイロビ在住。38歳。

クリスティーナ・ダイナ-2011年9月～

学校保健担当。校長退職後、教員の指導でも活躍。「そうしなければ(～になってしまわず)」が口癖。ムインギ中央県出身。60代。

インターンを終えて

現地の状況に耳を傾けることの大切さ

はるき
横田 陽紀

昨年11月から今年6月中旬までインターンとしてCanDoの活動に従事した。前半は会計業務や教室建設、幼児育成の分野に関わり、後半は地域保健分野で「住民代表対象の基礎保健研修」の立案・運営を担当した。

この研修では、住民が自らの村の代表を選ぶ仕組み作り、また3日間という1回の課程で公衆衛生の最低限かつ実践的な知識を盛り込むことが求められた。選出の仕組みも、住民にとって必要な知識も、全く見当がつかなかった。自分の経験や考えは直接通用し

ない。派遣前の研修で聞いていたように、頼れるのはケニア人調整員と保健専門家であるのだが、自分は疑っていた。本当に彼らを信じて良いのかと。しかし彼らの持つ考えと経験から研修は形になった。

現地を一番良く知るのは現地で生まれ育った人で、それはどんな専門性を持った外部者にも勝ると身をもって感じた。そして、開発協力において大切な姿勢とは、現地の主体性を引き出す、そのために現地の状況に耳を傾けることであると思った。

「子どもの未来のため」困難な作業に参加する保護者の姿から

山越 泰斗

2012年の2月から6か月間、インターンとして教室建設・補修、環境事業を担当した。

当初は目の前の作業をこなすことに必死で事業の目的、CanDoの目指すものを十分理解できていなかったように思う。地域の人々が抱える問題を、彼ら自身が主体的に解決しその暮らしを豊かにしていく。その言葉は理解しているつもりだった。しかしその中身は活動に関わる中で実際に理解していた。

強い日差しの中の建設作業、幾度も話し合い、建設資金の集金、大きな困難のある一つ一つの作業に、「子どもの未来のため」という理由で参加する保護者たち。自分たちで確かな豊かさの方向性を持ち、それに対し途中の困難を周りと協力し乗り越えていく姿を見た。

ここで見て、感じた「豊かさ」に対する考え方は、私にとって何物にも代えがたいものになると思う。

エイズ教育の重要性、早期妊娠の危険性に向き合って

小林 由佳

2012年2月から8月までの半年間、CanDoのインターンとして学校保健の活動を担当しました。

主に小学校教員向けエイズ教育研修、早期妊娠予防研修、そして幼稚園関係者会議等の活動を行いました。当初は事業を回すことに精一杯で、活動の深い意味を理解するには時間が掛かりました。次第に、各活動を通して、ケニアでのエイズ教育の重要性、早期妊娠の危険性に真剣に向き合えるようになりました。

住民の多くは、敬虔なキリスト教という背

景で、エイズ問題を扱うのは非常に難しく、参加者を集めるのも一苦勞でした。全ての人がエイズの正しい知識を得ること、早期妊娠を予防できる社会としていくことの難しさを知りました。保健活動は目に見える結果がすぐには出ないのですが、今後、ケニアにおけるエイズ事情が少しずつ改善されることを祈っています。

半年間にもっと出来たのではないかと、悔いも残っていますが、半年前とは違う広い視野を持つことが出来て、かかったケニアの人たちとCanDoに感謝しています。

フォト・レポート

幼稚園の関係者会議・小学校の子どもたちへ保健トーク・教員へエイズ教育研修

■ 幼稚園の関係者会議 - ミグワニ教育区

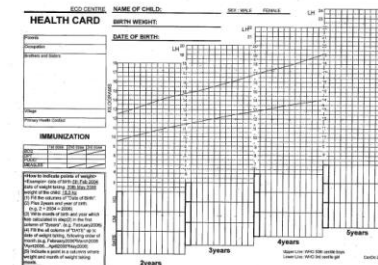
↓ 供与する体重計を試してみる校長



↑ 成長の記録カードの記入を学ぶ



↓ 幼稚園に配布する成長の記録カード



■ 小学校教員へのエイズ教育研修

ミグワニ教育区での第2 課程



↑ グループ・ワークで話し合ったことを、代表して発表する教員

→1 日目の朝、必要なモノを用意して、車とケニア人スタッフを待つインターン小林由佳さん (右と左の写真を除く p.7、および表紙を撮影)

講義・グループワーク用:

- ・黒板にはる紙
- ・ペニス・モデル
- ・コンドーム 他
- お茶と昼食用:
 - ・なべ、やかん
 - ・カップ、皿、スプーン
 - ・米、キャベツ、トマト他



■ 小学校での早期妊娠予防の活動 3 日目-子どもたちへ保健トーク(性と生殖に関する健康)

カムティンヤ小学校で ↓ 13~15 歳の子どもたちにコンドームの説明をする専門家



事務局から

報告

◇組織運営

○7月28日、理事懇談会で2012年度の活動および会計の中間報告、後半の計画について話し合いました。

◇支援

○6月23日、庭野平和財団の助成金交付が決定。ムインギ東県での早期性交渉・妊娠予防研修に40万円。

◇国内活動

○6月22日第4回、29日第5回を開催し、CanDo連続勉強会(全5回)終了。

人の動き

○6月14日、調整員 石田純哉がケニアから帰国。

○6月18日、横田陽紀がインターン期間(約3週間延長)を修了して帰国。

○6月18日、代表理事 永岡宏昌がケニアから帰国。

○6月23日～7月24日、事務局員 佐久間典子がケニアに出張。

○6月30日、鬼頭景子(きとう けいこ)がインターンとしてケニアで研修開始。

○7月17日、調整員 石田を再派遣。

○7月19日、山田夏子をインターンとしてケニアに派遣。

○8月2日、永岡がケニアに出張。

○8月2日～22日、茂野綾美(元インターン)を短期専門家としてケニアに派遣。

○8月10日、山越泰斗、12日、小林由佳がインターン研修期間を修了して帰国。

○8月31日、調整員 伊東彩が帰国。

○9月6日、合田暁良(ごうだ あきら)をインターンとしてケニアに派遣。

○9月9日、事務局長 久保内祥郎がケニアに出張。

お知らせ

■10月6日(土)・7日(日)

グローバルフェスタ JAPAN に出展

今年は「国際協力の日」当日に始まる、恒例の国際協カイベントに出展。パネル、教室の模型や教科書を展示し、ブックレット『ケニアの人々』、早期妊娠予防の冊子を配布します。また、サイザル麻のバッグ等を販売します。

開催時間: 10:00～17:00

会場: 日比谷公園

テントの位置: ブルーエリア B-34b

ウェブサイト: <http://www.gfjapan.com/>

* 例年と異なる会場配置になります。

■次号は、2012年12月発行の予定です。

CanDo アフリカ [第60号]

2012年9月20日発行

発行人: 永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行: 特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)

〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話: 03-3822-1041

電子メール: tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト: <http://www.cando.or.jp/>

郵便振替: 口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会